

令和7年度 第2回八幡地域協議会 会議要録

日 時：令和8年3月19日（木）午後7時～8時30分

場 所：郡上市役所本庁舎 4階 大会議室

出席者：（八幡地域協議会委員）中山冽、山下優子、河合研、坪井壽人、加藤徳光、山田昌昭、三嶋友美、村瀬正人、井森淳正、田中武之、先山祥一、武藤里恵、後藤正和

（オブザーバー：市議会議員）田中義久

（事務局）和田八幡振興統括、林政策推進課長、地口

欠席者：（八幡地域協議会委員）小林与志夫、山尾淳、兼山勝治、吉住耕次、山田篤司、細川竜弥

傍聴者：なし

（開会19時00分）進行：林政策推進課長

1. あいさつ（先山会長）

2. 協議事項（進行：先山会長）

（1）課題検討部会アンケート結果の周知について

資料1により、令和6年度に実施した「日常の買い物や移動手段に関する市民アンケート結果」について、事務局より説明。作成した広報用リーフレットと周知方法について諮った。

→《承認》（意見は下記のとおり）

【意見】

委員1：全戸配布する必要があるか。次の協議事項に関連するが、協議会の体制の見直しも検討されている中で、この課題検討部会の事業は継続していく訳ではないと思うのが1点。また、内容についてはQRコードと最終ページのサービス一覧を載せたものを作れば十分足りるのではないか。わざわざ予算を付けて作成する必要は無いと感じる。

委員2：アンケートは、地域の皆さんに協力をお願いしたもので、それをフィードバックすることは大切だと思う。ただ、これを回覧に挟んで回しても、きっと読んでもらえない。それよりは、一部ずつとってもらって、読んでもらえるよ

うに、全戸配布する形のほうがいい。

委員1：課題検討部会をどうしていくかということについて、組織改革も含めて見直しはあるか。

事務局：課題検討会については、また次の協議事項でお諮りするが、このアンケート結果を公表し、皆さんにお知らせするというのを一つの区切りとしたいと思う。そのため、なるべく多くの皆さんに結果をお知らせしたいという提案である。

委員1：とりあえずここで1つの区切りとして、次の課題はまた新たな体制の中で見つけていくという考え方でよいか。

委員3：今回アンケートをまとめていただき、非常に膨大な量だったが、ここまでコンパクトにして、内容も重要な部分について、イラストやコメントも入れながら、分かり易い解説で読みやすいものになったと思う。先ほど言われたように、390名の方がこのアンケートの調査に協力をしてくださっているのです、その方々に丁寧に回答するという意味でも、これぐらいの情報量は必要だと思う。また、最後のサービスの例も知らない方はいらっしやると思う。大切な情報だと思うので、高齢者にも分かり易い紙媒体での周知も必要だと思う。QRも付いているが、じっくり見てもらえるよう一軒に一部ずつ配布するやりの方が、答えてくださった人へのフィードバックとしても非常に良いやり方だと思う。

(2) 八幡地域協議会の体制の見直しについて

資料2により、令和8年度からの八幡地域協議会の体制の見直しについて、事務局より説明し、来期の八幡地域協議会の体制について諮った。また、協議後、地域運営組織及び集落支援員の活用について追加で説明を行った。

→承認（意見は下記のとおり）

【意見】

委員1：委員数の削減により、八幡地域協議会の予算は減るのか。

事務局：委員数の見直しにより、報酬等の予算額は委員数に応じた削減となるが、協議会への活動交付金には変更は無い。

委員1：最近の流れとしては、地区の単位協議会への分配のみでは無く、八幡全体として協議会の予算を活用できるのではないかということで、課題検討部会ができて、全体の予算を使っていこうという流れが出てきたと思うが、見る限りでは、地域の分配だけにするとという雰囲気が否めないのです、そのあたりはどのような考えか。

事務局：八幡地域は、広域であることから地区ごとに協議会ができているという認

識であるが、全体の共通課題に向かってというところで、予算付けし、昨年度のアンケート、買い物に関する支援の検討を行ってきたが、共通の課題を見つけるのも難しい面もあり、課題があった場合も、その解決に八幡全体で向かっていくのは難しい状況というところがあり、また以前に戻る形になるが、9つの地区協議会で様々な地域ごとの課題や向かっていく内容を協議していただいたものを、全体会において情報共有や意見交換を行っていく中で、例えば、複数の協議会と一緒にやるというような発想が出てくるかもしれない。また、そういった活動に向かっていくような形にしていきたい。また、今年度、それぞれの地区協議会にヒアリングを行い、共有させていただいたが、それぞれの協議会として活動していきながら、相互に情報交換をしつつ、最終的にはその八幡全体として活動が活性化していくような組織にしていきたい。

委員2：来年度は3号委員のうち、地区協議会の委員のみということで、他の号の委員については、協議会には入らないという認識でいいか。他の委員の意見にもあったように、八幡地域協議会としては全体で何かをやるってことは無くなり、それぞれの地区協議会というか、9つの地域協議会の連絡協議会的な形になるというイメージか。

事務局：ご意見のとおりである。

委員1：全体会では、地区協議会からの交付金の申請についても協議を行っているが、今後は地区協議会のみになるので、そういう点を議論する際は、ちゃんと議論して本当にそれが有用かどうかということを見つめる会議してもらいたい。今後、委員数が減り、時間的にも発言する機会が増える。発言もしやすくなるので、そうなった場合には、しっかりとした審議をお願いしたい。

事務局：委員の意見にもあったように、全体会では予算の審議だけで終わってしまう時もあったので、今後は、各地区協議会の予算の話だけではなく、事業計画や連携した取り組みといったことも協議できるような形を目指していきたい。方向性としては、各地区の協議会の活動についても突っ込んだ検討をしていきたい。

委員4：先ほどの体制の見直しのところで、3号委員として各地区の地域づくり協議会のみ体制になるとあったが、これは、八幡地域協議会が頭にあって、その下部組織で各地区の協議会があり、それぞれ活動していくという考え方となるのか。

事務局：下部組織ではなく、9つの地区協議会の集合体が八幡地域協議会という位置付けとなる。

委員4：そうになると情報交換や、お互いの事業の質を高めるような議論をする形と

なるということか。このアンケートを前回から見て、八幡地域協議会として、こういう事業を八幡全体やっていくので、これを元に進めていくと解釈していたが、政策実行組織ではなく、連絡協議会というイメージか。

事務局：そういう意味ではその様な認識となる。協議会では、全体的な議論や認識を共有しながら、実際の活動についてはそれぞれの地区協議会で実施しいただく形になる。

委員5：今の委員の質問で概ね納得した。ただ、今まで分科会を作り、八幡全体をどうするかということを考え、協議をしたことはどうなるのか。

事務局：それも含め、この9つの協議会がそれぞれの地区のことだけの活動をということではないと思うので、全体で共有してやるべきことをやっていかなければいけないと思っている。

委員5：今までの協議会は、それぞれの地区の人たちが何をやるため幾らかかった。今年度は予算幾らくださいっていう、単純に言えばそういう場でしかなかったような気がする。今後もそれは変わらず、ただの連絡協議会となるのか。

事務局：連絡協議会ということだけにはしたくないので、相互の事業をお互いに協議し合いながら、それぞれの事業の質を高めていただく場にしていきたい。

委員6：各地区の協議会が、地域の方々の意見を持って出てくれるということであれば、そこには自治会や公民館など他の意見も反映されているだろうし、この地区の協議会の構成で十分やっていると私は考える。どんなテーマでもって共有していくということが大切になってくるだろうと思うので、その辺りを協議しながらうまく回して行って欲しい。

委員7：私の協議会では、現在は活動があまりできていなかったが、今後このような形で縮小してということになれば、例えば予算も各協議会でよく計画されて決定したものの中から、更にこういう事業が必要だとなれば、予算ももう少し充てながら地域にとって良い事業ができるようになる。そういった話し合いができる場にしていければ良いのではないかと思う。

委員8：体制を縮小するという事については、この体制で十分できるということだったので良いと思う。ただ、例えば八幡町全体をどうするかということは、出てこないことはないと思うが、大局的に八幡町をどうするかということよりは、地域に特化したものであって、その地域のエゴという部分にはどうしても陥りやすいかなと思う。やはり、その地域の問題だけではなく、大局的なことについても考えて行かないと、本来の地域協議会の大きな目標から外れていくような気がする。

委員 9：今、言われた様に、町全体の中での困りごとたくさんあると、やはり、人材をどう育てるかとか、若い世代がどんどんいなくなって、これまでの困りごとと、未来、今だと AI とか世の中変わってくる中で、ますます格差は金銭的な格差だけじゃなく、情報格差とか、田舎は今まで以上に厳しくなるので、そういう中でどういう未来になりそうだから、地域としてどうするっていうような考え方を議論、情報共有する場があったらいいと思っていたが、なかなかそういうのは、この協議会に限らず、リテラシーの部分とか含め、正直難しいだろうなと思う。だから、縮小していく、シュリンクしていく中で、もう少し未来型の、先を見るような施策や話し合い、新しい生涯学習などをしていく場がどこかにあるといいと 1 つの課題として思う。

委員 3：課題検討部会の部会長をさせていただき非常に感じたことは、皆さん言われる様に、八幡町内には、たくさんの地域があり、それぞれの課題があるので、検討部会として、課題を見つけ、それをどうしていこうと協議したり、どのように改善していくのかと考えると進みにくい面はあると感じた。もちろん、課題がそれぞれというところもあり、それを見つけてこの様にしていこうと決めたとしても、それをやっていく為には、おそらく、この年に数回の会議では全然足りなくて、本腰を入れて、本当にいつもみんなで集まってどうするかを何回も協議を重ねて、それぞれが本気にならないと進んでいけないと思うので、まず、今の形では難しいと思っていた。かといって、それをやっていこうというともそれもまた非常に難しいことで、やはり何を大切にしたいかと考えたときに、すごく難しい大きな課題に向かっていくよりも、できることからやっていこうっていう考えにシフトしていくと、それぞれの地区に、地域づくり協議会があるので、そちらの活動の方を中心に、今までもやってきたように支援していく中で、先ほど事務局が何度も言われた活動の質を高めていく。ここが一番取り掛かりやすい、すぐできる改善策だと私は思っている。それぞれの地域課題を持ちながらここに集まり、こういう活動をやってみてはどうか、良いアイデアは自分の所でもやろうかという、交流や協議の中でお互いを高めていける場というのは、とても良いと思う。

委員 10：自分たちの地域から見ると、八幡全体を見てっていうところまではなかなか意識を向けられない状況、自分の地域のことでは精一杯の部分もあり、以前から地区の協議会の事務を担当しているが、どちらかという地域協議会は、交付金をもらって活動するということしか分かっていなかった。地域全体まで意識できなかったと感じるが、その中でも思うのは、地域によってそれぞれ課題はあり、特に、自分たちの様に小さい地域は、それだけで精一杯の部分もあるので、交

付金受けて、何か地域のために活動できるのはとてもありがたいことだと感じる。もう1つ、他地域の取り組みを見て、何か参考にならないかというところもあり、8年度は公民館と連携した活動として何かやりたいと思っている。皆さんと同じように地域のことで精一杯という状態で、なかなか八幡全体に目が向けられないかもしれないが、この9つの地区協議会が集まって、それぞれ前向きに意見交換や提案をしていけると、私はすごくありがたいと思う。

委員11：私の地区でも地域づくりやふるさとまつりなどの事業に交付金を使用させていただいている。予算もなく、まちづくりを進めていく上で交付金というのは非常にありがたい。私の地区でも住民が集まる機会が少ない中で、交付金を活用することで、大人数が集まって、去年も350人くらい参加があった。他の協議会の活動計画なども参考に、これからも交付金を活用して地域づくりをしていきたいという機運も高まってきている。今回の体制の見直しについてもこの形が良いと思う。

委員12：前の委員と同じような意見で、少子化などで地域が衰退していくのを止められないかという意識で地域協議会を立ち上げ、いろいろ活動しているが、それが歯止めになっているかはちょっとわかりません。新しい体制案で少し危惧するのは、単会だけで地域協議会を行った場合に、それぞれや9つの協議会の地域エゴがあるので、一番は予算をどういうふうに分配するかなど、第三者がいないと、やはり、予算をたくさんつけて自分たちの活動を盛り上げようという方ばかりだと思うので、公募1名の委員だけでは大変では無いかと思う。

委員2：大和や高鷲など他地域の地域協議会はひとまとまりの協議会で活動し、課題を見つけていくが、八幡はもう1歩先に行っていて、もっと小さな地域単位に地域協議会があるので、他地域と八幡地域は異なると思っている。数年前から他の地域協議会では全体の活動をやっているのに、八幡も全体の事業や目標が無いかという話があり、課題検討部会が立ち上がったが、このアンケート1つ形を作ったって終わってしまうのはもったいないという思いはある。ただし、各地区の協議会の連絡会議的になっていった場合、全体的な活動が無くなるのは残念という思いもあるが、全体の事業に単会の地域協議会がのめり込んでやってけるかということ、それは大変だと思う。

議長：他に意見はあるか。

事務局：本日欠席の委員のうち自治会八幡支部小林支部長、商工会八幡支部山尾支部長、八幡観光協会兼山副会長には、事前に説明をさせていただき、皆さんにはこの方向性について賛同いただいているので報告する。

(3) 令和8年度 事業計画・予算(案)について

資料により、事務局から令和8年度の全体会の事業計画(案)、予算(案)及び交付金配分(案)を説明し、令和8年度の交付金を申請する各単位協議会から、それぞれの事業計画(案)及び予算(案)の説明を行った。

→承認(意見は下記のとおり)

【意見】

委員1：まちづくり会議の予算の交通費の内訳はどのようになっているのか。講師のみか、学生なども入るのか。

事務局：講師の費用弁償として、2事業に講師2名分の往復分の旅費を計上されている。

委員1：例えば、口明方地域としてはもっと様々な行事、活動を行っているが、交付金を申請する事業のみを記載している。他の協議会を見ると交付金を充てない事業も掲載しているので、他の地域がどんな活動をやっているか分かる。口明方地域は、高尾山の整備のみで他の活動をやっていないようにも見えるが、自己資金で他の活動もやっているの、そういうものは全部載せたほうがいいのか。それとも交付金申請する事業だけにするのか。今後の情報交換の意味もあるのであれば全部掲載した上で、この事業に交付金が欲しいなど、そういうのがあった方が意見の幅が広がるのではないかと思う。

事務局：それぞれの地域によって、地域協議会やあるいは公民館事業などと関連させた活動がある。交付金申請としては、主は次年度交付金の申請のための事業計画、予算となっているが、地域づくりの取り組みの共有という意味では、地域協議会だけではなく、地域ではいろいろな主体が活動しているのでそういったものについての情報共有や意見交換ができる資料があると良いと思うが、交付金申請は交付金申請のための計画書があり、その他に全体的な地区の取り組みについて、必ずしも資料によるものでは無くても、活動が共有できるような形をとれると良い。

事務局：欠席の協議会の事業計画についても事務局が説明しているが、計画の細部についての質問には回答いただけない状況である。新年度に向かっていく上では、緊張感を持って事業の執行にあたって欲しいという意見や内容の深掘りについて、いただいた意見を尊重して取り組んでいきたい。

※協議事項終了後、議長からオブザーバーへの感想をいただいた。

オブザーバー：八幡出身議員5名の中で互選し、私が八幡議員代表となっているため

今日は1人でオブザーバーとして出席している。今日の内容は、他の議員にも共有するのでよろしくお願いする。熱心に皆さんが話し合われ、8年度に向け、いわば連合、連絡協議会のような、9つの地域協議会の情報交換と八幡全体の課題対策を考える場として、地域協議会をこれからやってこうということで、時代とともに変えていくのは良いことだと感じた。例えば大和では、小学校統合の際に地域協議会も相当中に入って審議されており、今後も八幡でもそういった課題を地域協議会でも取り扱っていくということなので、その場合は関係者がここで一緒になって話をするということになっていくのかと、お聞きする中で受け止めた。郡上市議会の状況は、スマホでも動画も見ていただくことができ、また、議員も何か地区で呼んでいただければご説明に行くのでよろしくお願いする。

3. その他

閉 会（和田八幡振興統括）